平成 29 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会
第 9 回会議概要

＜開催日＞

平成 29 年 11 月 20 日（月）

＜場所＞

本庁舎 6 階　第 2 委員会室

＜出席者＞

外部評価委員（5 名）

名和田会長、小池委員、小菅委員、林委員、安井委員

事務局（3 名）

行政管理課長、池田主査、原田主任

説明者（3 名）

地域コミュニティ課長、生涯学習スポーツ課長、新宿未来創造財団等担当課長

【部会長】

ただ今から、第9回新宿区外部評価委員会第3部会を開催します。

本日は、行政評価の手法等の検証として、外部評価の試行を実施します。お手元の次第のとおり、ヒアリングと評価の取りまとめを行います。所管課とのヒアリングを1時間程度行った後、第3部会としての評価の取りまとめを１時間30分程度行う予定です。

では、次第1「ヒアリングの実施」です。「個別施策Ⅲ－10　地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合った区政運営の推進」について、ヒアリングを行います。

＜ヒアリングの実施（説明及び質疑）＞

【部会長】

ヒアリングは以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

＜説明者　退室＞

【部会長】

続いて、次第2「評価の取りまとめ」に入ります。

評価の取りまとめは、はじめに、各自で個人としての評価を取りまとめていただきます。その後、各委員の評価を基に、部会としての評価の取りまとめを行います。

＜評価の取りまとめ＞

【部会長】

取りまとめ作業お疲れさまでした。

では、実際に試行してみての感想を述べていきたいと思います。

施策評価シートの記述自体はどうしても抽象的になってしまいます。そのため、評価のしようがないという話になってしまう可能性があるのですが、施策を構成している計画事業評価シート、経常事業取組状況シートの記述と施策評価シートの記述がどのように連関しているかという点が分かりやすく記載されていれば、施策単位での評価もできるのではないかと感じました。施策評価シートの内容は抽象的ですが、施策を構成する計画事業や経常事業の内部評価シートを見ていくと具体的な内容が分かるということです。これだけの資料を頂ければ、施策単位での外部評価が基本的には可能であるという印象を持ちました。

しかし、今回の試行では、施策評価シートから個別の事業の内部評価シートを見てみても具体的な内容にたどり着けないという部分もありましたので、その点については外部評価として評価しにくいと感じました。このような論点については、別途、資料提供等をしていただくことによって外部評価が可能になるのではないかと思います。これまでの事業単位の外部評価においても、資料を事前、あるいは事後に提供していただき外部評価をするということがありました。そのような形で補足的な資料を提供いただければ、施策単位の評価が可能なのではないかという印象を持ちました。

施策評価に当たっては、施策が「目標以上」か「目標どおり」か「目標以下」かということについて、部会としての評価を決めなければいけないのですが、これは判断が難しいですよね。何をもって「目標どおり」と考えるのかという点については私自身も分からないようなところがありますし、施策評価シートの目標設定を見ると、2つしかない指標の1つが未達成なので、「目標以下」と評価すべきなのかもしれないと思いますし、なかなか難しいと感じます。

【委員】

目標値にはまだ達していませんが、目標の達成度で考えてしまうと、毎年度達成度が100%になるまでは「目標以下」になってしまうのではないでしょうか。そういうことではなく、目標値は設定し、そこまでは達成していないけれど、一つひとつの行政としての動きについては年度ごとに計画的に実施しているということを評価するべきだと思います。数値のみで評価してしまうと、達成するまではずっと「目標以下」という評価になってしまうので、目標に向かって一歩ずつは近づいている、そのステップを評価しても良いのではないかと思います。

【委員】

今回試行した個別施策について、施策評価シートに記載されているめざすまちの姿というのは、地域の課題にどのように取り組み、どのように解決するかということが究極の狙いであり、目的です。今回の施策評価シートでは、その課題にどのように取り組むのかについて、各地区に丸投げされているような感じがします。内部評価シートの「総合評価」では、「目標どおり」に取り組んでいるとの評価をしていますが、現場としては戸惑いがあるのではないでしょうか。地域では、まだまだ自分たちの意見を事業に取り入れるという土壌ができてないという現状があると思います。

【部会長】

以前から町会に関する事業の外部評価意見として、個人的に書いていることではありますが、

町会・自治会の加入率は町会や自治会の力を測る本質的な指標だと考えています。しかし、区に限らず、現代社会で町会・自治会の加入率が上昇したという事例はほとんどありません。非常に根深い構造変化があり、加入率を上げることはなかなか難しいので、むしろ、会員や若い担い手が増えたことを大事にして、町会の活動をレベルアップしていくようなことをやるべきではないかと考えます。加入率という指標はとても大事で、100%になることが最終的な目標ではありますが、加入率を目標値にしてしまうといつまでも達成できないという話になってしまうので、加入率自体は下がっていても若い人が活動に参加してくれるようになった、会員になってくれたなどの、一つひとつのことを大切にしていく方が良いのではないかと個人的に思います。

【委員】

施策評価シートを見て感じたことは、所管課が本当に現場を見ているのかということで、把握の仕方が少しずれているのではないかという感じがします。

平成30年度から地域の活動団体等に対して新たな助成制度が始まります。このことによって、事業をやめてしまう地区もあります。新しい制度は、地区ごとの特性に合った活動を支えることを目的としています。これまでは、事務局や帳簿の管理、申請など、特別出張所の職員がやってくれていましたが、今度はやらなくなります。そうすると地区の方はもうできないと言い始め事業をやめてしまう。このような現状を所管課は分かっているのでしょうか。

【委員】

町会・自治会の加入率が上昇しない一番の原因は、世代間の交流がない、あるいは世代間によって考え方が違うということだと思います。このままでは町会・自治会の存立が問われるような事態になりかねないと思いますが、なぜこのような現象が起きているのでしょうか。

【部会長】

それはなかなか難しい問題ではありますが、一つは若い人が町会・自治会に加入しなくなったということがあります。若い人のニーズに合った事業ができていない、若い人の間で町会に入るのは当たり前だという意識が薄れてきている中で、このような若い人たちが世帯主になり、町会・自治会に加入しなくなっています。これが一番大きい要因ではないかと思います。

もう1つの要因は世帯の縮小です。町会は世帯単位での加入になります。世帯ごとで会員となるので、地域全員が加入しているという状態を実現しやすかったのですが、今、世帯と個人が一致し始めていて、自分では役員などができないからやめてしまうという事例がたくさん報告されています。

また、町会はボランティアで活動することが主ですが、地域のためにボランティアで活動できる人が減ってきているということもあります。

以上3つの要因によって、町会・自治会の加入率が年1%ずつ下がるような事態になっているのではないかというのが全国的な状況を見たときの仮説です。

【委員】

よく分かりました。区は現在、若者会議を開催して、若者を取り込んでいこうという取組を

積極的に行っていますが、これについてはどう思いますか。
【部会長】
　これは素晴らしいことだと思います。若者の間で町会の存在感が薄い原因は、若者のニーズを捉えた活動を行っていないということもあると思います。若者の意見を聞き、若者の活力をいかし活動するいうことを前提に、若者に町会・自治会に加入してもらい、町会・自治会の活動を若者のニーズに合ったものにしていくということが必要です。このことにより、かなり加入率は上がるのではないかという気はします。
【委員】
　そのような点に着目すれば「目標どおり」「目標以上」という評価が妥当ではないかと思います。今後の評価の方法ですが、施策や事業の目に見える部分、数値で見える部分、見えない部分の考え方によって評価が変わってきてしまうのではないでしょうか。
【事務局】
　評価の決め方についてのご意見などがあれば是非頂ければと思います。
【委員】
　部会の中で意見が全く反対になってしまった場合にどのように考えたらいいのかということがあります。
【部会長】
　決め方ですね。
【委員】
　外部評価チェックシートの書き方なのですが、「役割」「効率性」「有効性」「成果」「取組の方向性」を先に書いて総合評価を書いたのですが、そのような書き方で良いのでしょうか。
【事務局】
　委員の書きやすい方法で良いと思います。個別の視点からいろいろ考えていただき、その上で総合的に評価するという方法ももちろん良いと思います。
【委員】
　これまでの評価シートと違い、「総合評価」を先に示しているということが画期的ではないかと思います。個別の視点について述べた後に最後に結論を示すよりも、先に結論として総合評価を示し、その理由を記載していく形に変えたことは画期的な考え方だと思いますので、素晴らしいと思います。
【事務局】
　外部評価として、個別の視点から積み上げていただき結論を出していただくという方法は全く問題ありません。
【部会長】
　外部評価としては、総合評価の「目標以上」「目標どおり」「目標以下」の決め方に課題が残ったと思います。評価の決め方として、目標に向かって進んでいると言えるかどうかという視点と、単純に数値目標を達成しているかどうかという視点、現状を見たときに計画と照らし

て乖離があるかどうかという視点など、そのような評価の視点が幾つかあり、どの視点で考えるかによって判断が分かれてくるということが、今回の議論の中で分かったのではないかと思います。

このようなことを提言として述べるような形で良いのではないでしょうか。

では、本日はここで終了します。どうもありがとうございました。

＜閉会＞